



地震 地震を知る

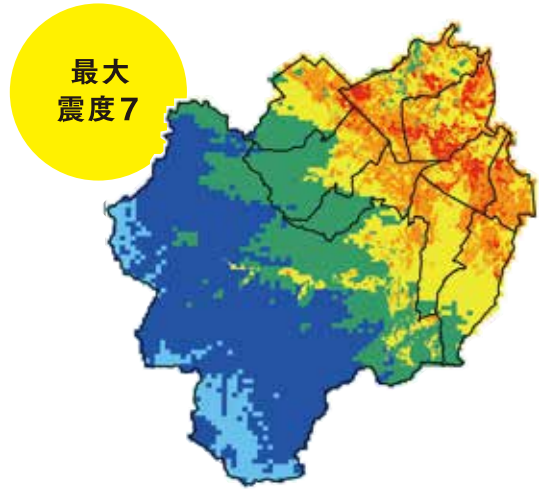
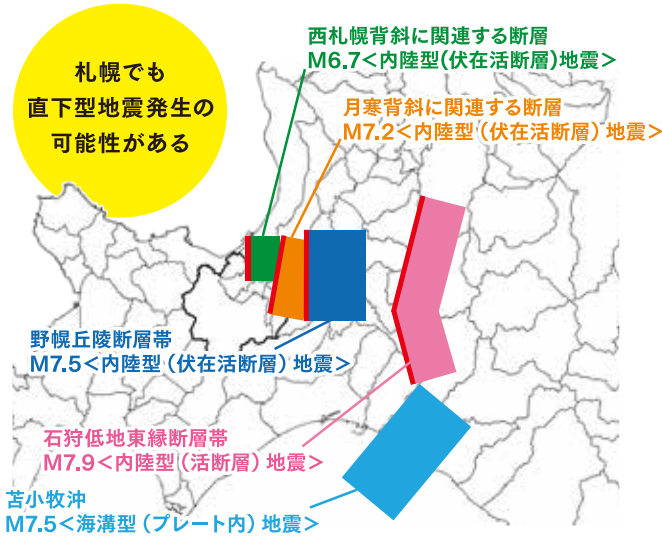
こちらもチェック

札幌市 第4次地震被害想定



札幌で想定される地震

札幌市第4次地震被害想定は、地震に関する最新の知見を踏まえ、札幌に最大級の被害をもたらすと考えられる地震を設定し、その地震から想定される被害の全体像を示しています。



札幌に大きな被害が及ぶと想定している5つの地震

断層面上端

各地震の最大震度



さっぽろポイント

冬場の被害が甚大

死者数想定

夏 363人

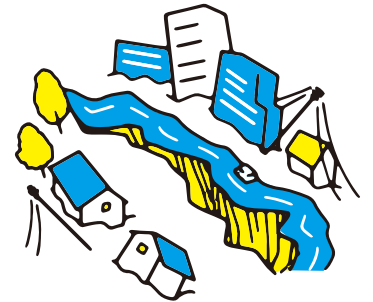
冬 936人 3975人

建物倒壊・火災による死者

建物倒壊の生き埋めによる凍死者

(全員が救出されず凍死すると仮定した場合)

冬はストーブなどを使用しているため火災の発生が多くなります。さらに、建物倒壊により生き埋めになった場合、救助に時間がかかれば、多くの凍死者が発生します。



ライフラインが使えるようになるまで

冬に地震が発生した場合、ライフライン復旧の作業効率が夏よりも大幅に低下することが予想されます。復旧は最大で下記の日数がかかる見込みです。

電気 7日

通信 7日

上下水道 27日

ガス (都市ガス) 40日

建物被害 約1万5,000棟が全壊	避難所避難者 約9万人 (8,000頭のペットが同行避難)	エレベータで閉じ込め 約4,600台 約4台に1台が停止!	帰宅困難者 約11万6,000人	経済被害 直接被害 約2.7兆円
----------------------	-------------------------------------	-------------------------------------	---------------------	---------------------



地震

大地震が起きたら

いざというときの命を守る行動を日ごろからイメージしよう

地震はいつ起きるかわかりませんが、札幌では震度7の強い地震が想定されています。

地震が発生したときに命を守る行動をとれるよう、日ごろからイメージしておくことが大切です。

屋内での行動

地震発生！

まずは最優先に自分の命を守る

物が「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」
場所で身の安全を確保しよう。



余震にも
注意

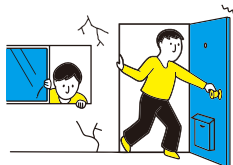
揺れが収まったら



靴を履いて
足元のけがを防ぐ



火が出ていたら
消火を



ドアや窓を
開けて
出口を確保



テレビや
ラジオ、スマホで
情報収集

▶ 詳細は33、34P



ブレーカーを
落とし、
ガスの元栓を
締める

在宅避難



- ・家庭内備蓄を活用
- ・余震や火災が広がるおそれがあるので、いつでも避難できるように準備
- ・隣近所で助け合う

避難の判断

こんな時は自宅にとどまるのが危険！

- ・家屋の倒壊などにより自宅で生活できない
- ・周辺で火災やガス漏れが発生するなど危険な状態である
- ・避難情報の発令がある

「自宅が安全」と
判断したら

「自宅にとどまる
のが危険」と
判断したら

立ち退き避難



- ・避難の際は落下物や足元、ブロック塀の倒壊に注意
- ・非常持出品を持参
- ・緊急車両の通行の妨げになるので、車で避難しない
- ・災害用伝言ダイヤルなどで避難先を家族に知らせる



地震

屋外での行動

さっぽろポイント

建物からの落雪に注意
冬には地震の揺れにより屋根からの落雪の危険があります。

慌てて道路に飛び出さない
安全を確認せずに飛び出すと、走行中の車とぶつかる危険があります。

落下物から身を守る
看板やガラスの破片などの落下物に注意しましょう。

転倒物に注意
ブロック塀や自動販売機などが倒れてくることがあるので、そばから離れましょう。

電線には近づかない
切れて垂れ下がっている電線には近づかず、絶対に触らないようにしましょう。



緊急地震速報
来る前に知る

緊急地震速報は身を守る合図

緊急地震速報は、気象庁が震度5弱以上の強い揺れを予想したときに、震度4以上の揺れを予想した地域に、可能な限り早く知らせる情報です。速報を見聞きしたときは、慌てずに身の安全を確保しましょう。





地震

外出時の危機

知っているだけで身を守れることがたくさんあります

外出時に大地震が発生したら…

起こり得る危機と取るべき行動を自分の身に置き換えて、考えておきましょう。



車

- 急にスピードを落とすと追突事故の危険があります。ハザードランプを点灯して徐々に減速。道路左側に止めてエンジンを切り、揺れが収まるまで待機します。
- 走行中に大地震が起きると真っ直ぐ走れなかったり、下から突き上げられたりするようになり、運転が困難になります。

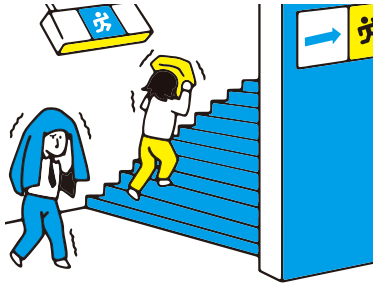
電車内

強い揺れを感知すると電車は緊急停車するため、人にぶつかったり倒れる危険があります。



駅

落下物などから身を守り、ホームから転落しないよう近くの柱のそばへ移動。地下鉄の場合、いち早く地上に出ようとしてパニックになる危険もあります。



地下街

停電で多くの人がパニックになり、非常口に殺到すると転倒などの事故の危険があります。落ち着いて落下物から身を守り、柱や壁のそばで揺れが収まるのを待ちます。



オフィス

キャスターを固定していないコピー機などは、思わぬ方向に移動します。体に当たると、大ケガの原因になります。

海や川の近くで大きな地震を感じたら、すぐに避難しましょう。
詳しくは、「札幌市津波ハザードマップ」をご確認ください。

配布場所 各区役所、危機管理局(市役所7階)

札幌市 津波ハザードマップ





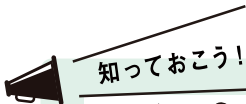
地震

帰宅困難になったら

誰にでも起こり得る帰宅困難

平成23年3月の東日本大震災では、公共交通機関の停止などにより首都圏で約515万人の帰宅困難者が発生しました。また、平成30年北海道胆振東部地震では、札幌都心部で多くの帰宅困難者が発生し、一時滞在施設を開設するなどの対応を行いました。

地震



STOP! 一斉帰宅

大規模地震発生直後に大勢の人が一斉に帰宅すると、混雑による将棋倒しなどの危険があるとともに、緊急車両が通行できなくなるなど、救命・救助活動の妨げになるおそれがあります。災害直後は「むやみに移動を開始しないこと」を基本原則とし、一斉帰宅の抑制にご協力ください。

時間帯別行動パターンをあらかじめ想定しておきましょう

出勤(通学)時



- ・自宅に近ければ自宅に戻る
- ・通勤(通学)途中で職場(学校)が近い場合は職場などで安全を確保する

就業(就学)時



- ・施設が安全な場合は施設内で待機する
- ・屋外の場合は、周辺の安全な場所で待機する

帰宅時



- ・職場(学校)に戻る
- ・帰宅途中で自宅が近い場合は自宅で安全を確保する

安否確認・情報収集手段の確保

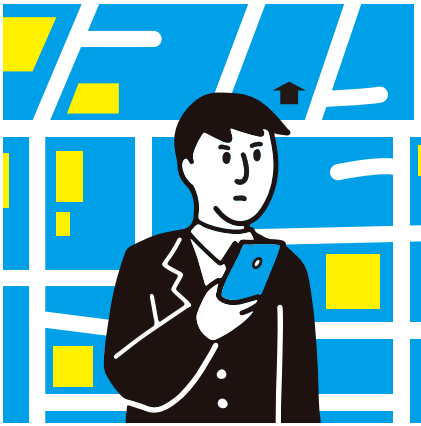
災害発生時は電話が殺到し、被災地域では電話がつながりにくくなります。職場への連絡手段、家族との安否確認手段をあらかじめ決めておくことが重要です。停電による電話やメールなどの不通を想定し、複数の連絡手段を準備しておきましょう。

安否確認の方法などは

災害用伝言ダイヤル「171」の使い方を確認しよう。

▶ 詳細は12P





徒歩帰宅は慎重に

身の安全を確保し、家族の無事を確認したら、ラジオやインターネットで正確な防災情報を入手しましょう。

周囲の状況が落ち着き、道路状況などの安全が確認できたら、徒歩帰宅を慎重に検討します。

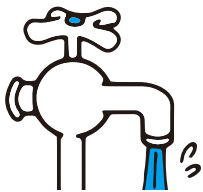
徒歩で帰宅する場合に備え、日ごろから歩きやすいスニーカーなどを職場のロッカーなどに置いておくことも大切です。

▶ 詳細は10P

災害時帰宅支援ステーションの活用

北海道が締結している協定により、災害時には市内のコンビニエンスストアなどの協力店舗で徒歩帰宅の支援が受けられます。協力店舗は黄色いステッカーが目印です。

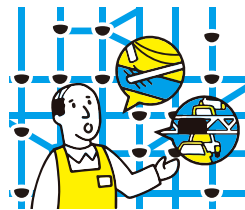
災害時帰宅支援ステーション(協力店舗) 協力内容



① 飲料水の提供



② トイレの使用



③ 道路情報などの提供



協力店舗ステッカー

災害時は
このステッカーを
見つけよう!

一時滞在施設の利用

帰宅困難者の発生が予想される札幌駅、大通駅周辺では、大地震などにより公共交通機関が停止し、多くの帰宅困難者が発生した場合、「一時滞在施設」※を開設します。

一時滞在施設の開設状況は、札幌市ホームページやさっぽろ防災ポータルなどで確認できます。

※一時滞在施設は、帰宅が可能になるまで待機する場所がない帰宅困難者を一時的に受け入れる施設です。



平成30年北海道胆振東部地震
一時滞在施設に身を寄せる帰宅困難者

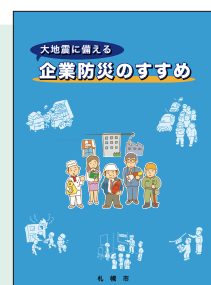
企業防災のすすめ

事業者の方は、交通機関が回復するまで、従業員や来訪者を一定期間施設内で待機させられるよう、待機スペースの確保や備蓄品などの検討をお願いします。

詳しくは、「企業防災のすすめ」でご確認ください。

配布場所 各区役所、危機管理局(市役所7階)

🔍 札幌市 企業防災のすすめ





地震

在宅避難を考える

ライフラインの停止に備える

家の倒壊をまぬがれ、自宅での生活に問題がなければ、家庭の備蓄品を使って「在宅避難」を検討しましょう。共同生活のストレスや感染症のリスクを軽減できるメリットもあります。

まずは家庭の備蓄から



1人3ℓを3日分、備蓄することが目安です。その他、生活用水のために浴槽などに水をためておく心安心です。

※小さな子どもがいる世帯では、ためた水で子どもが濡れないように注意しましょう。

断水

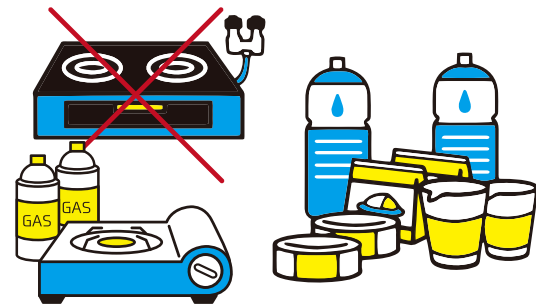
札幌市では、災害時の飲料水を確保するため、市内に緊急貯水槽を設けています。最寄りの拠点給水施設を確認しておきましょう。

Q 札幌市 拠点給水施設

断水してしまった場合

家庭で備蓄している水がない場合には、フタのできる清潔な容器を持って拠点給水施設などに開設する給水所で給水を受けられます。マンションなどで停電により水道水が出ない場合は、敷地内で給水できることもあります。詳しくはホームページでご確認ください。

Q 札幌市 停電時の給水方法



ガスの停止

都市ガスとLPガスは、震度5程度以上の地震を感知するとガスを自動的に遮断する装置(マイコンメーター)が付いています。

ガスが供給されており、ガス臭くない場合は、簡易な手順でガスを復旧させることができます。家庭で使用しているガスの復旧方法や災害時の注意点を確認しておきましょう。

Q ガス 復旧



充電サービスに並ぶ市民(札幌市役所)

平成30年北海道胆振東部地震では、札幌市内全域で数日にわたり停電となりました。

停電

●地震による火災原因の約6割を占めるのが通電火災(地震で停電した電気が復旧した際に起こる火災)です。通電火災を防ぐために、避難する時はブレーカーを落としましょう。

●モバイルバッテリーを準備しましょう。携帯電話やスマートフォンは、家族との連絡や情報入手など、災害時に重要です。省電力モードに切り替えることで電力の消費を抑えられます。

●真冬に停電が発生すると、電源を必要とするストーブは使用できなくなります。電源不要のポータブルストーブや、温かい食事を取るためのカセットコンロを備えておきましょう。



地震 避難所での生活

災害の影響により自宅での生活が難しい場合は、開設している避難所を確認し、しっかり準備をして避難所へ行きましょう。避難所の開設状況はさっぽろ防災ポータルなどで確認できます。

避難所の心得

避難所での生活は不自由なものです。全員が不安な気持ちで避難しているので、お互いの気配りや思いやりが大切です。また、救援物資には限りがあります。必要な物はできる限り持参するようにしましょう。



役割分担

避難所の運営は避難者全員で行います。気持ちよく避難生活を送るために、特定の人負担が大きくなるように役割を分担し、全員で協力しましょう。



寒さ対策の徹底

冬はもちろん、天候や停電などにより、避難所内も厳しい寒さになることが考えられます。防寒衣や防寒グッズはできる限り持参しましょう。



トイレの使い方を守る

トイレが汚いと使用をためらい、水を飲むことを我慢し、脱水症状を起こす人もいます。ルールを守って使用しましょう。



防犯対策の徹底

不特定多数の人が出入りするので、現金や身分証などの貴重品は必ず持ち歩くようにしましょう。また、なるべく複数人で行動しましょう。

Q & A よくある質問にお答えします！

Q. 在宅避難をしても物資はもらえるの？

A. 在宅避難をしている人も、物資を調達できない場合は、避難所で必要な物資の提供を受けることができます。しかし、数には限りがあり、避難所にいる人の中には家を完全に失ってしまった人などもありますので、家庭での備蓄でまかなえるように、日ごろから備えておくことが大切です。

Q. ペットと避難してもいいの？

▶ 詳細は12P

A. 札幌市の避難所はペットを連れて避難することができます。ただし、体育館など避難者が集まるスペースに連れて入ることはできません。避難先の決められたペット用スペースで、飼い主の責任のもと飼育することになります。ペット用品や餌を忘れずに持参しましょう。また、ペットの管理、排泄物の始末や掃除などは丁寧にいき、トラブルにならないよう心がけてください。



札幌市の避難所開設についての動画も公開中

Q 札幌市 避難所 開設・運営イメージ動画

